



publishing house: moriyama 2-19-52 Kanazawa
 Jodo Shinyu Jhokoji phone 076-852-4922
<http://www.spacelan.jp/~jhokoji./2005.10.17>

ほうおんこうとわたし

専念寺住職 平田 力精

生死の苦海ほとりなし
 ひさしくしずめるわれらをば
 弥陀弘誓のふねのみぞ
 のせてかならずわたしける。

『高僧和讃』 龍樹菩薩三

(1)

秋の天気は気まぐれですが幸いよい
 天気恵まれて、皆様方には
 出難きところを本当にようこそ参詣
 を賜りましてありがとうございます
 す。ただいま紹介しました、平田

でございます。みなさまの顔を見
 ておりますとなにやら怪訝な盗人
 見てるような…
 出会いというのはまことに不思議な
 ものでございまして、当寺のご住職
 と九月のことでした。金沢別院では
 じめてお会いしました。これが縁と
 なりまして年に一度の報恩講さまに
 ご縁を結ばさせていただいた次第で
 す。
 皆さんの中でどこかでこの顔ど
 こかで見たことがあります。ほとんど

のかた初めてかなと想っておりま
 す。こやつ、どこから来たもんやら
 という顔つきしてますな。
 髪は薄いしくつや、とかね。輪島
 から来ました。人口わずか二七〇〇
 の小さな町でございます。
 私の処は町はずれの、千枚田から少
 し下がったところですよ。最近千枚
 田で結婚式が挙げられるんです。市
 が奨励してるんです。もちろんお金
 はでるんです。ところが最近離婚
 が増えたところからめつきり数が
 減ったそうです。何も寂しいとい
 ころ、まあ寺の数が多いのが自慢と
 いえましょうか。
 お寺の数が多ければ沢山の方がお
 詣りにおいでになるかというそ
 んなもんじゃない、なあーもお詣り
 がないがや。
 みなさま方は”報恩講”ほうおんこ
 う”と平生から親しんでおられるこ
 とです。“ほうおんこう”を別の呼
 び名でいいますと”親鸞聖人御影向
 のみぎ”といわれます。あまりきき
 なれんかもしれんがね。「影」をよ
 う”とか”えい”ともいただくんで
 す。本願寺の御影堂がこの字なんで
 すね。さらに”ねい”と呼ぶ場合も
 あります。

では”よう”といいただきますがね。
 平生私たちは”かげ”といいただい
 てますが”ねい”・”えい”も「姿」
 といただくのです。「向」はそのま
 までいい。「御影向」いうところは
 弘長二年十一月二八日午の刻、頭北
 面西右脇に臥して九十歳にしてお
 浄土にお還りあそばされた親鸞さ
 まなれども、末世の衆生に心が残つ
 てならんとぞと、わざわざこの年に
 一度のこの「報恩講」さまにちなみ
 今親鸞さまがこの本堂にお姿を現
 されたのです。ここにお集まりの
 方がた一人一人にまさに向かつて
 おつて下さるのです。そこがこの場
 所なのです。すなわち「報恩講さま」
 が勤まつているこの処である。それ
 を”親鸞聖人御影向のみぎ”とこう
 呼ばれるのであります。
 わざわざ親鸞さまがこの年に一
 度のこの「報恩講」さまにちなみこ
 の本堂にまさにお姿を現され、誰あ
 ろうか今日お集まりの方々、一人一
 人に向かつてきてくださるのです。
 言い換えればひとえに一人一人が
 仏法をいただく中に”信心決定”な
 さつておられるのか？或いはこの親
 鸞と同じく信にもとづく身の上と
 なつておられるのか、わざわざご案
 じなされ、いまここにお姿を現され

「御真影」を”ごしんねい”とここ

私たち一人一人に向かってきておつて下さるといえますね。

さあ、みなさま方どうぞ！

今年も余すところ何日ぐらいいと思います。そんなことあんまり気にしとらんがなあ。なんやしらんが一日すんだわ！てなもんかな。なんや寂しいな。

どうしても、報恩講の時節を迎えまして一年というのは早いもんやなあ！とつくづく思う。今年も残すところ七五日。多いか少ないかはそれぞれですが、しかし確実に二五〇の日が過ぎ去ってきたのですよ。

みなさん、どうぞしよう、まだ早いかもしれんが、一度この二五〇日を振り返ってみて下さい。

今日・明日が報恩講さまではございませんわ。三六五日がまさに真宗の流を汲むものにとつては報恩講でなければならぬことはいうまでもありません。

ところが二九〇日過ぎでみまして、どうですか。一片たりともこの間にこれで良かったなどという心、いふならば“報恩感謝”とか“報恩謝徳”の気持ちを持たれた日は何日ありましたでしょうか。

今年はいろんな自然現象に悩まされました。昨年は夏がなかったでしょう、違いますか。長雨と日照不足で

ね、夏がございませんでしたね。梅雨前線の後に来たのは秋雨前線でした。今年も正反對ですね。三〇度超す日が三〇日も続いたんです。

また八月の下旬からは毎週台風が来まして、沖繩をはじめ台風の玄関口に当たる地域の方々、本当に気の毒な思いをされましたね。畳を代えたり瓦を葺き替えたり余裕なんかないんです。次から次へと来るんですから。

さいわいにもこの石川県は、白山のおかげか知らんが大きな被害を受けることはなかった。富山・福井は豪雨によって大変な被害に遭つて、尊い命が失われてましたね。今悩まされているのは熊ですがね。山中ではお初夜も勤めることができな

んだ。危ないというて。去年の冷夏からずっと影響して熊のおでましになつたと。ずっと連なってるんです。じつは私の寺にも熊がいるんです、うちの妻や（笑い）なかなか里帰り

さんのやわ！居座つてしもうて、わたしや逆らわんのやがね！（笑い）熊とも妻ともいふしフセイン大統領ともいふしね。鉄砲の弾で銃殺されますからね（笑い）。大変なもんやね。

山へ行くなどいうても行くがやな。熊が出るというのに山菜採りにいくがや。変なもんですね。

熊と人間の共存なんてなかなか難しいね。熊が出てくりや殺さなきゃならん、殺したくなくともね。わたしの命が危ないからね。猟友会なんか呼んでね。

夏テレビ見とつたでしょう、あれー森山にやあテレビないのけ（笑い）オリンピックだったでしょう。オリンピック、オリンピックでした。沢山のメダルを獲得しましたね。

一方、イラクでは戦争が現実起こつてますね。わたしたちはいながらにして戦争と平和を眺めていたんですよ。ただ嫌なものやら臭いものには蓋して、オリンピックばつかしワイワイ拍手喝采してですね。もちろん拍手喝采してたの他ならぬ私たちなんですよ。

漸く気づいてみれば二九〇日過ぎで、年に一度の報恩講さまですわ！どうですか。振り返ってみれば報恩感謝の日々を歩んできたか問われま

すね。貴方はといわれればとてもじゃないが、そういつた心少しも持つことができなかった私たちなんです

ね。そのような今日を生きる私たちの身を案じ、更には私たちのこれから行く末を案じ、とてもじゃないが、心配で心配でおられんやわい。どうか年に一度の報恩講さま！一人一人

が縁としてこういう身上になつて欲しい。こういう歩みをして欲しい、そういう願いの下、わざわざ親鸞さまがこの本堂に今お姿を現され、私たち一人一人にはまさに向かつてきておられるのです。

はじめに深い信心を著された、親鸞さまのご和讃をいただきました、「生死の苦海」とあります。生き死ぬという字です。他人さまのことではないですよ。みなさま方一人一人の生と死でございませよ。平生これを厳しく見て歩んでゆかねば勿体ないことですよ。

死というもの、皆さんの顔を見れば他人は死んでもわしゃ死なぬという顔しとる。（笑い）

いずれは死を迎えて逝かなならんのであつて、まだまだこうもああもしいかな！死は後の後のことだと。一人一人が奥の方に引つ込めておられるんじゃないですか。

ときおりテレビを見ておりますとね、今はイラクのことがおもてだつて出てきますがねその前にアフガニスタンの戦争があつたでしょうね、この頃アフガニスタンのことやかましくいわんね。

その後どうなつたか興味ありませんか？悲しいことに次第に記憶が薄れてゆきます。

たとえばお詣りが終わってご自宅に帰って、夕飯のお支度をされる方も多いでしょうが、台所で水道栓をキュッとひねるとなにご出てきます！みなさん、水、出てきますね。日本中で栓を捻るとシャーと出る水に勿体ないな一と思う。私たちの生活の上に水がなかったらどうして生活していけるもんかな。そこに勿体なあと手を合わせる人はどれだけおりましたよ。

またトイレへいけば皆、水洗ですね。コックを回せば水はシャーと流れますね。流れなかったらどうなります。生活できますか？部屋でご飯食べられます？とてもじゃないが食べられんわね。ああ一勿体ないもんな！金沢くりや、銭さえありや、何でも手に入る。世界中のものがね。また柱のスイッチをババと入れれば明るくなりますわね、電気が無ければどうなりますか。水や電気がなければどうして生活していけるでしょう。そんなこと思う人だけおられるでしょうか。お金さえ出せば欲しいものが手に入ることを当然としてるんですよ。あたりまえをあたりまえにしてるんですよ。イラクを見て下さい。電気・水道・学校・もありません。比してみると我々はこんなに恵まれた環境にあるんですよ。

よ。こうして暮らさせていただいていることを当然としてる。

たしか平成一三年やったと思いましたが、福井でドカ雪のためご満座の報恩講が急遽とり止めになつたことがございました。九〇センチ位でしたか、怪我や事故を鑑みれば当然なことでしょうね。脱線しますがね、可笑しなことね、お説教のご縁がなくなれば布教師は邪魔なものやわ。荷物まとめてサツと能登に帰ってくれりゃいいのやわ。(笑い)ところが電車がストップしてるし、道路の渋滞閉鎖、でお寺にまる

二日間お世話になったことがありました。なんもせんとね。申訳のうて、ようやく三日目に市内のホテルに移ることができました。住職にお礼を述べようとする、一そんな水くさいこといわんと寺に泊まつとりやいい一と言われたがそんなに迷惑かけられんからと、辞退した時の住職の嬉しいそうな顔たつらね！(笑い)やれやれ！途中で車が雪で埋まり、長靴で歩いてホテルまでいきましたんや。着いたはいいがお腹が減つてね。食堂を探すがみんな閉まつてた。この時代お金は少々あるんですけどね、食べるものがないんですよ。弱りました。さいわいコンビニエ

ストアを見つけホットしたんですが、空っぽ、なにもない。(笑い)弁当運ぶトラックがこれんがやね。どうにもならんからカップラーメンで我慢したんです。

明くる朝、超満員の臨時電車で金沢穴水と乗り継ぎ終点輪島に着たんです。穴水からは運転手をいれて三人ですよ。運転手の終点のアナウスの聞いておりました考えされました。ようやくついた安堵感はあるのですが、“次は終点”と言う響きが気になったんです。

よるしいかな、皆様も私も一日、一足、一駅、確実に人生の終着駅に向かっているんですよ。お間違えなく。ストップもバックできませんがやぞ。バックできりゃいいね。私もつくぐ思う。バックもストップもできんね。

また“お忘れ物のないよう、お気をつけてお帰り下さい”と聞いた時なにをみなさんは考えますか。なにもかも当たり前としてる我々、自分の命すら生きていることを当たり前としてる、傲慢極まりない今日の私達に向かつて、“お前さまそれでよいか”それで間違いないのか”それで満足しているのか”忘れ物がなにか”と正面のご影向の弥陀さまがまさに私たちに問いかけを

なさつておられるということです。私も皆様方もまさにここに向かつて歩んでいかねばならんや。

全国的に葬儀会場・セレモニーができてますわね。みなさんもセレモニーへいくのと違いますか。あそこへ行けば難の心配もイランね、暑くも寒くもない人任せ。それが告別式という風に代えてしまうたんじあなですか。告別式というのはただ単に先立たれた方への別れを告げる会という意味しかない。あの人いい人やった、町のためあもやった、こ

うもやつてくれた、なんとい人がね一と故人を偲ぶ、大体それくらいに終わらししもうて、自分に対する問いかけが無くなつてしもうた。他人の事にしてしもうてるんです。違いますか。最近生きとる間に告別式をだす人があるんですわ。

昨年八月頃でしたか、葬儀の立僧の依頼があり、いつて何というお方が亡くなられたのか尋ねると、いや一寸言えませんと、変に思い再度尋ねても言えぬと。葬儀は明日一〇時と告げられ、今夜の通夜は？いや勤めませんと。翌朝いつてみると。会館には椅子一つなく、丸いテーブルがあり上にビール、ウーロン茶、ジュース、鶏の足、唐揚げ、野菜が盛つてあるんですよ。

正面には故人の大きな写真が飾つてありました。みなさん深々と頭を下げてましたね。私もです。

しかし親戚等の人達誰も悲しんでるようなものには驚きましたが。とにかく案内され僧侶控室へいきました。お手次の方が七条袈裟をつけて座っておられたがその横に亡くなつた人が座ってるがや、初めて生きてる死人を見たがや。吃驚した。

これは生きてる内に葬儀を、いわゆる生前葬というがやと教えられました。「正信偈」だけをあげてもうもんだけもろうてサツサと帰ってきたわ。世の中変わった！変ですよ。

あくまでも葬儀というのは先立たれた方を縁として、残ってる私が向かえていかねばならぬものに対して、ホントに厳しい心を持てるのか或いは持てないのか、それが問われるのが葬儀ですよ。

『道俗時衆等 各発無上心 生死甚難厭 仏法復難欣 共発金剛志 横超断四流 願入弥陀界 帰依合掌禮』(勸衆偈)と棺前のお勤めがありますね。お坊様も在家の方も各に先立たれたお方を縁にして一人一人が後生の心を興して欲しいとお経の初めにありますね。

さらにもう一言申します、金沢の方で人がお亡くなりになりますとき、

「弔い」と言うこと聞きますか。今は弔いと言いますと弔いという字を使いますが本来は「訪」と書きます。

七高僧のお一人、道綽禪師さまは「前に生まれしものは後を導き、後に生まれんひとは前を訪え、連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽くさんがためのゆえなり。」とおっしゃる。その字は訪と書きます。よく家の前に訪問販売固く禁じるとよく書いてあったね。これは尋ねるといふ字です。

本来の「とむらう」という意味は先立たれた方、お通夜に又葬儀に足を運ばれた方々一人一人に対して、今まさに身をもって語りかけて下さることを一人一人が心して尋ね詣らせていただくのが本来の「訪」の意味でしょう。仲のよかつたお方が、長い間お付き合ひのあつたお方が、通夜に葬儀に足を運ばれた我々一人一人に身をもって語りかけておつて下さることを心して尋ね詣らせていただくことなのでしょう。

人の話ではなかつた。息ひきとつて言葉も発する事もできない方が私に身をもつて語つて下された。

あんたはまだまだ死ぬことを人の事やら後のことにしてるかも知らんけども、我が身も否応なしに死を向か。

えていかねばならぬ身の上であることをおさえておかねばならない。

今宵もお会いさせていただきましょうと、明日もお会いさせていただきましょうと、ここで上手をいうたつてほんまにここで会えるかどうか、明日会えるかどうか。

ほんま、約束のできん命を私たちは抱えとるんじゃないですか。

「無常」と蓮如さんは「おしゃつたでしょう。常に一刻々色・形は変えていくことです。わたしも母親の中に生を受けてより年を経るとこういう風貌になります。皆様方も生まれながらにそういう顔しとつたんじゃない。(笑い)ポチャポチャとつた時もあったんや。無常なんですよ。なにか突発的なことが起こつたときのみが無常なのではない。ということはこの我が身も娑婆に身を置く以上、何時その死を迎えることとなるのか、それは分かりません。

しかし、何時この私が死を迎えることとなつても、慌てることなく、安心して死してゆきたいと思うのは私だけではないでしょう。

大事なことは、生まれ難い人に生まれさせていただき幾多の苦難にも遇させてもらうた、みんな見えぬお力添えのおかげと氣づかせてもらうたと謝する。

俗に言えば地に足がついた確かな人生というのでしょうか。

一筋に弥陀の弘誓をたよりとして、ご苦労のうえに獲得されたご先祖の内なる世界。かれらの真宗人としてのおおらかなる姿を見聞するにつけ、自然と頭が下がります。

ご先祖と同様私もまた、たまた、ナンマンダブ、ナンマンダブと仏の御名をたたえ、歩まさせて頂くことにほかならぬことです。

このように厳しく今日の私に、問いかけて下さつてる仏様、さらにはこの報恩講さまにこの本堂に姿を現された御影向の親鸞さまへと私たちも答えさせていただけかねばならなかつたのではないのでしょうか。

時間がきました。このあたりで昼の法話終わりにいたします。ありがとうございました。